

氏名	浅越健治
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3685号
学位授与の日付	平成14年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Numerical, morphological and phenotypic changes in Langerhans cells in the course of murine graft-versus-host disease (マウス移植片対宿主病におけるランゲルハンス細胞の数的、形態的、表現型の変化の検討)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 岡田 茂 教授 谷本 光音

学位論文内容の要旨

移植片対宿主病(GVHD)における表皮ランゲルハンス細胞(LC)の動態について検討した。BALB/cヌードマウスにC57BL/6マウスのT細胞を静脈注射しGVHDを誘導した。LCの数的、形態的变化を表皮シートの蛍光抗体法で、アポトーシスの有無をTUNEL法およびannexin-Vの結合能で、表現型の変化をフローサイトメトリーで、機能的変化を混合培養試験で検討した。アロT細胞を静脈注射後5日目にGVHDを発症し、LCは6日目より減少した。GVHD誘導直後に大型となり樹状突起も顕著となったが、減少する直前には樹状突起は不明瞭となり類円形の形態を呈した。LCのアポトーシスは認められず、活性化マーカーは発現を増強した。2次性表皮細胞リンパ球混合培養反応ではリンパ球増殖能が亢進した。これらの結果より、GVHD発症初期にはLCは表皮内でアポトーシスに陥らずむしろ活性化され、アロ反応性T細胞のさらなる活性化と、病状の悪化に関与することが推測された。

論文審査結果の要旨

本研究は、移植片対宿主病(GVHD)における表皮ランゲルハンス細胞(LC)の動態について解析したものである。この結果、GVHDの発症初期にはLCは活性化しており、5日目から急に数が減少し、LCの遊走の可能性を示唆している。この知見は、GVHDの発症におけるT細胞活性化機構の解明に重要であり、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。